

スーパー耐久シリーズ 2017  
第1戦 ツインリンクもてぎ



東 徹次郎  
TOHJIRO AZUMA

最激戦区にチームとしても初陣のもてぎラウンド！！

手探りの状況から価値あるシングルフィニッシュ！！

- ・開催サーキット：ツインリンクもてぎ（4.801km）
- ・レース時間：200分
- ・チーム：T's concept
- ・マシン：T's concept 86 (TOYOTA86)
- ・カーナンバー：#29
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A **東 徹次郎**    B松永 大祐    C森山 鉄也



## 公式予選（4月1日）

◆Weather：曇り ◆Course：ウェット

開幕直前にマシンが完成し、チームとしても自分としても初めての86というマシン、手探りの状況で迎えた開幕ラウンドです。今回木曜の走行が無く、おまけに昨年まで3本走れた金曜の走行枠も2本だけと圧倒的に走行距離が少ないまま迎えた予選でした。

蓋を開けてみたらAドライバー予選はウェット路面。雨自体は止んでいたのですが、どんどん路面コンディションが良くなっていく方向でした。

コースインしてマシンの動きとタイヤの発熱を確認しながら走行していきます。

しかしながら、周回を重ねても一向にグリップ感が出てきません。それどころか、進入ではステアリングに最初の反応はあるもののそこから車が旋回しづらく、立ち上がりでは逆にすぐにリアがすっぽ抜けてしまいトラクションがかからずエンジンの調子の良さを活かしきれません。そしてブレーキング時もマシンがフラフラとしてしまうのでマシンコントロールに四苦八苦という状況でした。

結局最後まで氷の上のようなバランスでタイムも路面の乾いてきた分だけ上がったのですが、自分的にはタイムも上がらず、気持ち良く走れた予選ではありませんでした。

しかし基本的には車の動きはドライも同じような感じでしたので、ウェットになって路面の $\mu$ が低くなったことでその症状が顕著に出ているのだと感じました。

B、Cドライバー予選時にはそれに伴って若干セットアップを変更したのですが、どんどん乾いていく路面コンディションなので直接的に比較にはならないものの、基本的にはアンダーステアの問題が続くかたちになりました。

マシンのバランスには苦しんでいるものの、もてぎの走り出しからエンジン・ミッションなどは絶好調でしたので、そういう部分は決勝に向けても非常に感触良くは終わることが出来ました。

**予選結果：15位 4'45.017 (A・B合算タイム)**

**A：2'23.857 B:2'21.160 C:2'13.130**

## 決勝（4月2日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

前日の予選とは打って変わって晴天に恵まれた日曜日。昨年までは朝のウォームアップ走行の時間もありましたが、今年はその時間も無いので、予選から変更したセットアップに決勝は賭けるしかありませんでした。

今回は松永選手、森山選手、そしてラスト1時間20分を自分が走る作戦でした。

初のスタートを担当した松永選手でしたが何の問題も無く、非常に安定して走行を重ねていきます。

ただマシンバランス的にはやはりアンダーステアとの無線が入っていました。そしてちょうど60分で森山選手へと交代します。

森山選手は86ワンメイクレースにも参戦していて一番86という車両にも慣れているので、走るごとにタイムを上げていき、ガソリンが軽くなってきたころには自己ベストを更新しながらの走行でした。

しかし、森山選手からの無線でもやはりアンダーステアとの報告が入っていました。

そして残り約1時間20分というところで自分が乗り込みます。

左のミラーが動いてズレてしまっていたのでその修正だけしましたが、ピットストップもほぼロス無く完了してコースへ。

うちはタイヤ無交換作戦でしたので、給油のみで残りを自分が担当します。マシンのバランス的には聞いていたとおり、ステアリングの初期の反応はあるものの切り込んでいくところからはアンダーステアで曲がらない症状でした。そして時折フェンダー内に溜まっているタイヤカスがタイヤに飛んで、それによってマシンが滑ったりバイブレーションが起きたりと、自分的にはコースで踏んだ覚えの無いときにタイヤカスでの違和感が襲うので、序盤そのことがわかるまで戸惑いました。

乗り方をちょっとずつ変えたりはしていたのですが、自分の未熟さもあってアンダーステアに悩まされてどうにもペースが上がらず、同クラスのマシンと遭遇してもコーナーごとにどんどん離されて非常に苦しい走行となっていました。

途中その中でもガソリンが減って軽くなるにつれて少しずつペースは上がってきていたのですが、自分のスティント半ばを過ぎるとフロントタイヤの消耗も

進んだのか、いよいよどうにもならなくなってきてペースが上がらなくなってしまいました。

自分でも安定はしているもののペースが悪いのは認識していたので、本当に苦しい最終スティントでした。

しかしながら周りがトラブルなどで後退していくなかで、マシン自体は絶好調でミッションの入りも最後まで悪くなかったので、アンダーステア以外は本当に安心してドライブすることが出来ました。

そして暑さも全く問題無かったので、体力的にも余裕がありました。

結局自分が最後のスティントは35ラップ乗り、終わってみればスタートからシングルの位置までポジションを上げることに成功出来て、8位でチェッカーを受けることが出来ました。

**決勝結果：8位（自己ベストタイム：2'15.566）**



## 反省

今回はマシンがレース仕様になってから、このもてぎでシェイクダウンのような感じでした。

その為、セットアップとしては足回りのバランスがバネレートや車高など、まだまだ手探りの状況で少ない練習時間でテストしきれなかったこと。

そしてリアウィングも現在小さいものが装着されていますが、富士で走行した際はそこまで気になりませんでした。もてぎのようなレイアウトのコースにはこれだとダウンフォースが少な過ぎるのではないかと、いろいろな要素が考えられるので、次回の SUGO までにテストが出来ればセットアップを煮詰めることが急務です。

そしてドライビングの面では、アンダーステアのマシンに自分が合わせきれなかったことが本当に反省点です。

金曜の練習でタイヤの良いときは逆にまだ自分にも余裕があったのですが、決勝でタイヤ無交換の際の最後のスティントでは、レースペースが悪過ぎました。

今回でだいぶこの 86 というマシンの特性も見えてきたので、次回の SUGO にこの自分に対しての悔しい気持ちもバネにしていきます。

しかしながら、走り出しから決勝までマシンがノートラブルなのは本当に強みであり、素晴らしいことだと感じています。

これにマシンとドライバーがリンクして速さが備わってくれば、自ずと結果もついてくると感じた開幕戦でした。





## 最後に

まずは今年度もスポンサーの皆様のお陰でこうやって走れることに、本当に感謝致します。

チームも参戦初年度に自分をAドライバーとして抜擢してくださり、その重みはもちろんです。本当にチャンスの一年だと感じております。

初のAドライバーとして自分の役目はチームを引っ張り、速さを見せていくことが必須であり、そのためにも今まで以上に努力していかなければなりません。

第2戦は4月29日にスポーツランドSUGOにて3時間レースになります。

この一年でチームと共に自分自身必ず大きく成長していきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2017年4月5日

東 徹次郎

